

国家における安全保障

黒田インターナショナル

黒田 毅

国家における安全保障は、独立という絶対要求を合意し、軍と外交、産業の育成における自己構築を行う必要性を有する。

外交は、現状における自由陣営と強権主義の2分化に対して、その自己理念を基盤とした対立でない融和における参加を軍事条約の構築や平和条約の締結においてその参加を模索する。

安全保障は、国家の独立性を維持し、内需におけるすべての産業の育成を義務とする。これらは他国間と2国間における貿易協定を求め、自国の利益の侵害しない限りにおいて、共有のルールにおける参加を提案する。

これらは必ず軍事的な世界のプレゼンスへの理解と参加を行うものである。これら世界政治への参加は正しい情報の収集と分析における自国の運営を要求され、唯一現実への参加を可能とするのである。

これらは明確な政治における自己プレゼンスの構築を必要とし、現実への対応を求められる。

これらは政治が唯一国家の決定することの完全な証明であり、安全保障は、自己独立と自立における国家運営の必要性を政治が有することへの正しい証明なのである。

これら産業と資本、軍事力と学術進歩における国家の安全保障は、唯一国家が自己の永続を求める選択なのである。